

【第1号議案】令和元年度事業報告

1 事業の成果


令和元年度は、震災後の住民自治の実現を目指す「コミュニティサポート事業」、とめ女性支援センターを拠点とする「女性・子ども支援事業」、「就業・起業支援事業」、登米市の魅力を首都圏において発信し、ヒト・モノ・カネを呼び込み地域経済を活性化させるための「シティプロモーション事業」を展開した。とめ市民活動プラザの運營業務は3年目となり、市当局との連携を密にして、各コミュニティの地域づくり促進や、市内NPO、地域づくり団体等の活動支援を促進した。地域づくり計画策定支援の実績から、就業起業支援事業の一環で小箱ボックス出店者に対する支援事業としては「米川・移動マルシェ」の実践につないだ。

東日本大震災から8年が経ち、仮設住宅から自宅再建や災害公営住宅等への住み替えも完了し、表面上は落ち着きを取り戻したかのように思われるが、その実態は「復興」を実感できていない被災者の現状がある。さらには、大網町内の固有の問題として貧困・ネグレストの芽があり、町内会として子どもたちの見守りをする動きをサポートするなど、地域密着の活動を展開した。

11月には世界防災フォーラムに参加し、防災に関する弊法人の取り組みをポスターセッションと本セッションにて報告させていただいた。被災から復興への過程における「手仕事支援によるコミュニティづくり」には外国の参加者から強い関心が寄せられた。従来型BCPでは対応しきれない災害やリスクに備えるためには様々なコミュニティがそれぞれのリソースを持ち寄り、より広範で綿密なCommunity Continuity Plan (CCP)の整備が必要である。この国際会議への参加は、その具体的な検討を開始するきっかけとなった。

2月、3月には、新型コロナウイルスの影響をうけ、施設の閉鎖やスタッフの自宅待機を余儀なくされたが、新年度は、新しい生活様式の中でどのような活動が出来るのかを考え、実践していきたいと考えている。

2 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

事業(1)	商店街との連携による、地域住民への心の絆創造事業	実施日時	令和元年7月1日～ 令和2年3月31日
実施場所	南三陸町	従事者数	7人
受益対象者	南三陸町商店街、南三陸町志津川地区災害公営住宅住民、小学生・保育園児150名	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	南三陸町の商店街で地元住民へむけて各種イベントを開催し、商店街に多くの住民が訪れる機会を作り、復興に向けた活力ある街の拠点としての商店街づくりを進めるとともに、地元住民の商店街への新しい思い出や愛着意識を醸成し、心の復興を目指す。		
事業内容	<p>1. 子どもたちの思い出に残る商店街での各種イベントの実施</p> <p>●ハロウィンフォトフェスタ</p> <p>実施日：令和元年10月20日（南三陸さんさん商店街） 令和元年10月26日（ハマレ歌津）</p> <p>事業内容：子どもたちが仮装用コスチュームに着替え、フォトポイントで写真撮影をし、記念に写真をシールにしてプレゼントした。また仮装した子供たちが商店街のお菓子屋さんを回ってお菓子をもらい、ハロウィンイベントを商店街で楽しんでもらった。</p> <div style="text-align: center;">  <p>ハロウィンフォトフェスタの様子</p> </div> <p>●南三陸こども4コママンガコンクール</p> <p>事業内容：3月に南三陸町の各小学校（志津川、戸倉、入谷、名足、伊里前）の児童を対象とした「4コマ漫画コンクールを実施するために、各小学校に応募用紙を配布した。その後新型コロナウイルスの影響で休校となり、応募作品を回収が期間内に出来なくなったため、表彰式及び展示会は中止となった。応募作品は学校が再開後回収し、心の絆創造事業の特設Webサイトにて公開する予定である。（7月掲載予定）</p>		

2. 災害公営住宅住民への商店街での癒しワークショップ事業の実施

●心の癒しワークショップ・心のセルフケアワークショップ

実施日：令和元年9月5日、10月3日、11月6日、12月4日、12月19日、令和2年1月24日（計6回）

事業内容：南三陸町の商店街を会場に、自分の心身のケアの手法を学び、パワーストーンのブレスレット作りや多肉植物の鉢植え作りなどの体験するワークショップを実施した。



3. 心の絆創造事業ホームページの制作

事業内容：新型コロナウイルスの影響により中止となったマンガコンクールの代わりに、心の絆創造事業の成果を伝えるホームページを制作した。

※平成31年度宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業補助金を活用

成果

震災後新たな商店街として町を元気づけてきたさんさん商店街で、子ども達や地域住民がイベントを通じて思い出を残すことが出来た。また各災害公営住宅の入居者同士がワークショップを通して新たな仲間づくりをすることができ、互いの心の内を話す機会となった。マンガコンクールは中止となってしまったが、今後ホームページ上で作品を公開するとともに、商店街をPRするページを設け、南三陸町の活性化に繋げていきたい。

事業(2)	多面的機能支払活動組織継続支援業務	実施日時	令和元年12月1日～ 令和2年3月20日
実施場所	登米市・栗原市	従事者数	1人
受益対象者	20人	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	多面的機能支払活動の継続を断念せざるを得ない組織の状況を調査・分析し、課題の整理や解決方法等を検討することで、活動再開に向けた体制づくりを支援する。		
事業内容	大崎市3地区、栗原市2地区で実施するものであり、とめタウンネットは栗原市2地区（力石保全会、大平地区農村環境保全会）を担当した。		

	組織名：力石保全会（栗原市）			
	地域概要	<ul style="list-style-type: none"> ・約 25 世帯 ・ほとんどが農家 ・小規模集落で地域に後継者あり 	多面再開の予定	なし
			多面をやめた原因・課題	・自己完結型で、多面制度（協働作業）をやめても地域に影響がない
	当事業の進め方		成果と今後の展望など	
<ul style="list-style-type: none"> ・市担当者に力石地区の詳細の確認した ・瀬峰周辺の農業者や関係者にヒアリングをしながら、力石での活動に繋がられるような方法を探った 		<ul style="list-style-type: none"> ・力石保全会の事務を担っていた佐々木氏に個別ヒアリングを行い、力石の現状と課題の整理ができた。現時点での多面制度復活は厳しそうだが、また活用したいと希望があった際にサポートができる体制を整えておけるとよい ・瀬峰地域でアロエハウスを営む白鳥氏と接点を持たせたことにより、周辺地域の女性の意見を聞くことができた。地域内外の女性や若者等が中心となって多面制度の事務を行う体制が作れるとよい 		
	組織名：大平地区農村環境保全組合（栗原市）			
	地域概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地区全体の農業者：約 100 名 ・班(全体で 5 班)ごとの活動が多い ・地区の農地面積が広い。農地を外部に委託している世帯も多い 	多面再開の予定	あり（ただし組織内の一部の可能性）
			多面をやめた原因・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・非農家（農地の委託）の増加による協働意識の減少 ・制度内容の理解不足
	当事業の進め方		成果と今後の展望など	
<ul style="list-style-type: none"> ・市担当者に大平地区の詳細の確認した ・大平地区（周辺地域含む）の農業者対象の意見交換会を重ね、田んぼのもつ多面的機能を考える機会を提供し、現状や課題を整理した 		<ul style="list-style-type: none"> ・大平地区に限らず、周辺地域も巻き込みながら、田んぼのもつ多面的機能を考え、現状・課題の確認をすることが出来た ・制度内容を地域に正しく浸透させ、その上で地域がどんな体制・活動しているのかを知る必要がある ・地域内外の女性等が中心となって多面制度の事務を行う体制が作れるとよい 		
成果	<p>力石保全会は自己完結型で支援を必要としていなかったが、丁寧に周辺地域の情報を収集すると、60 歳代以上の男性達为中心となって活動をしていて、次世代や女性への継承がなされていないことが分かった。そこで、とめ女性支援センターのネットワークを活かし、近隣に居住する農業女性へアプローチし、若手や女性たちが多面的機能支払活動に参画できる道筋を作った。</p> <p>大平地区農村環境保全組合は、その土地にかつてコミュニティカフェ開設講座を受講し、実際にカフェを営業している人がいたため、その人から地域へつながるきっかけを作ってもらった。また、力石保全会の話し合いに出席した女性も大平の話し合いに参加し、地域間のネットワークを作ることができた。</p>			

事業 (3)	空き家対策の担い手強化・連携モデル事業	実施日時	令和元年 10 月 1 日～ 令和 2 年 2 月 28 日
実施場所	登米市迫町	従事者数	3 人
受益対象者	登米市迫町民	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	多くの市民が安心して生活を送るために問題となっている空き家について、相談できる専門家の育成とともに相談窓口を設置する。また空き家について地域の連携を図る必要があるため、行政をはじめ地域コミュニティと連携できる組織を立ち上げる。また空き家を利活用して店舗にし、地域活性化を目指す手法等のセミナー等を実施する。		

事業内容	<p>空き家相談窓口の開設のため、スタッフに空き家相談員としてホスピタリティ研修を行った。また、空き家を利活用する空き家活用セミナーを2月に開催した。</p> <p>空き家対策の先進地への視察（京都：NPO法人京都泉山、東京：NPO法人空き家活用プロジェクト）研修を実施し、空き家対策の先進事例を学ぶとともに空き家対策の問題や取り組み事例を盛り込んだ冊子「空き家サポート」を発行した。</p>
成果と今後の課題	<p>登米市の空き家サポートのプラットホームと相談員の育成と空き家相談窓口はできたが、今後空き家をどのように利活用していくか、空き家サポートの具体的な手法については官民一体となって考える必要がある。</p>

事業(4)	とめ女性支援センター運営事業	実施日時	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日
実施場所	とめ女性支援センター他	従事者数	3人
受益対象者	一般市民、不特定多数	事業分類	女性・子ども支援事業
事業目的	<p>各種イベント、セミナー、プログラム等を実施し、登米市一南三陸町を中心とする女性支援に携わる団体・個人のネットワークを形成し、利用者の増加を図る。</p> <p>また、世代を超えて協力しあえる関係性を築く学びの場づくりを行う。</p>		
事業内容	<p>① できたことノート実践講座・シェア会（受講者 40名）</p> <p>岡山県に加藤せい子氏、横浜市の林亮太郎氏を講師に「できたことノート実践講座」を前年度3月、4月、5月、9月、12月、3月に実施した。</p> <p>受講生の振り返りの会（シェア会）を4月から毎月1回開催し、シェア会はとめ女性支援センターを会場に、講師二人はオンラインで参加した。</p> <p>② 登米市女性会議アドバイザー</p> <p>登米市主催の女性会議のアドバイザーとして話し合いを支援した。</p> <p>その後、登米市女性会議有志の会が「第二期登米市子ども・子育て支援事業計画（案）」に対して意見を提出するサポートを行った。</p> <p>③ にじいろキラリ交流会</p> <p>沖縄・愛媛・横浜の女性3人のグループ「にじいろキラリ」が来登。</p> <p>8月24日（土）には、畑で地元の子どもたちとの交流会を実施した後、編んだもんだらの編み手のお母さんたちとの交流会を実施した。</p>		
成果	<p>全国から来る復興サポーターのみなさんと登米市内の方たちとの交流を図ることができた。また、「できたことノート実践講座」や女性会議のサポートを通して、今までとめ女性支援センターの存在を知らなかった人たちも頻りに来所するようになった。</p>		



事業(5)	放課後子ども居場所・見守り事業	実施日時	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日
実施場所	コンテナおおあみ	従事者数	3人
受益対象者	地元の子どもの達10人程度及びその保護者	事業分類	女性・子ども支援事業
事業目的	放課後、ひとりで過ごす時間が多い子どもたちが、安心して過ごすことのでき、子ども達の育ちを地域で支える居場所を作る。		
事業内容	ビックネットと協力し、子ども達が放課後過ごせる場所として、毎週月、水、金の午後3時半から5時半にコンテナおおあみの1階のミーティングルームを開放した。ビックネットの皆さんには子供たちの見守りとして協力いただいた。		
成果	大網町内の児童民生員を中心として、子どもたちの見守りの体制をつくることができた。また、ばけつ畑部へ参加するようになり、大網町内から活動の輪が広がった。		

事業(6)	(食育)南三陸と登米をつなぐ食堂プロジェクト	実施日時	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日
実施場所	とめ女性支援センターhug	従事者数	1人
受益対象者	延べ約120人	事業分類	女性・子ども支援事業
事業目的	南三陸のみなさんが震災前から食べてきた海の幸の旬の料理を紹介する「南三陸と登米をつなぐ食堂」を開設することにより、海(南三陸)～里(登米)の交流を深める。料理を通して味や海の仕事の記憶を次世代、他地域へ継承する。		
事業内容	<p>実施日：毎月2回、「うれしやTOME本店」及び「タウンネットカフェ」にて開催した。6月8日(土)のみ、栗原市若柳の農家民宿「たかまった」にて開催。</p> <p>事業内容：2017年度から浦上食品食文化振興財団さまに助成していただき食育活動を展開してきたが、3年目の今年は、実際に「南三陸と登米をつなぐ食堂」としてコミュニティカフェを月2回実施し、チャレンジカフェマスターによる主に海の幸を使ったランチを計画、実施した。</p> <p>料理指導：うれしやTOME本店店主鹿野昭子氏、フレンチ料理の千葉翔太氏。</p> <p>チャレンジカフェマスター：平井由紀子氏、加藤詩乃氏、千葉みゆき氏、加藤洋子氏、熱海千寿子氏、阿部綾星氏、三浦みき子氏、高橋かおる氏、富岡明日香氏、菅原史恵氏、木川裕美氏、松浦寿枝氏、白鳥未夜氏</p>		
成果	<p>チャレンジカフェとして実施することにより、味の記憶を継承する「場」や「人」が増え、他地域での料理教室や生産の現場体験、ワンデイカフェの実施などのノウハウを蓄積できた。</p> <p>・編んだもんだらの編み手のお母さん達がうれしやTOME本店で編み物の練習をするようになり、店主の鹿野昭子さんやお客様たちと交流するようになった。震災前に作っていた炊き込みご飯のレシピなどを教えてくれるようになり、チャレンジカフェ(つなぐ食</p>		

	<p>堂) の開催日にも参加してくれて、交流がどんどん深まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジマスターになってくれる人たちは、去年までのお料理教室に参加してくれた人たちを中心に声掛けをしたが、みなさんが料理作りに興味関心のある人たちで、浜のお母さんたちの家庭料理のレシピを楽しく作ってくださった。 ・「洋風のお料理も食べたい」とか、「作ってみたい」という声が聞かれたので、昨年までタウンネットカフェを活動拠点とし、今年度は独立を果たしたフレンチ料理シェフの千葉翔太さんにも5回ほどお料理を担当してもらった。さらに本事業外にも、千葉翔太さんとチャレンジマスターのみなさんとのお料理教室を自主的に開催するなど、活動の輪が広がっている。 <p>また千葉さんはご自分の郷里・岩手にレストランを開業し、そこでも登米や南三陸の食材を積極的に使っている。登米～南三陸のつながりから、栗原～岩手で輪が広がった。</p>
--	--


事業(7)	子育て女性就職支援拠点育成事業	実施日時	平成31年4月1日～ 令和2年2月28日
実施場所	とめ女性支援センターhug	従事者数	3人
受益対象者	子育て女性の就業希望者	事業分類	就業起業支援事業
事業目的	登米市の各地域では、まだまだ子育てにおける「パパの役割」「ママの役割」の見直しと家族の協力が必要不可欠であることから、女性の社会進出による地域の活性化や協力し合う必要性を理解し、豊かな暮らしに繋げるためのセミナーを実施する。		
事業内容	<p>女性が社会進出していく中、男女共同で家庭を作っていく事の大切さを学べるセミナーを一年を通して実施した。</p> <p>〈各種セミナーの開催〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性がよりどころとなるコミュニティカフェを運営した。 ・女性向けに自分自身と向き合うセミナーを実施した。 ・心の癒しとなるハーバリウム作りの体験講座を実施した。 ・「親子で体験！プログラミング教室」を実施した。 ・子育て女性の面接時の好感度アップセミナー(マナー編・メイク編)を開催した。 <p>この他、とめ女性支援センター内に常設の相談窓口「とめジョブ」を開設し、子育て女性の様々な悩み解消のための窓口としてスタートした。また、支援人材の育成・ネットワーク構築事業「とめ女サポートネットワーク」を組織した。(詳細は別紙参照)</p> <p>※平成31年度宮城県子育て女性就職支援拠点育成補助金を活用</p>		
成果	<p>1. 直接的な効果</p> <p>登米市内の子育て女性に向けた就職に関する様々な新しい情報を発信することができ、各種セミナーを受講していただくことにより、それぞれの適性に合った職業の発見や自らのスキルアップに繋げることができた。</p>		


	<p>2. 波及的な効果</p> <p>とめ女性支援センターが登米市の総合的な女性支援の窓口として、多くの子育て女性に認知された。拠点を設けたことにより、登米市の女性たちの多世代間交流を図ることができた。</p>
--	--

事業(8)	小箱BOX支援事業	実施日時	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日
実施場所	とめ女性支援センターhug 他	従事者数	1人
受益対象者	レンタルボックス利用者24名	事業分類	就業起業支援事業
事業目的	手仕事による身の回り品の販売支援を通じて、東北の暮らしの知恵を発信するとともに被災地での女性の仕事づくりを支援する。		
事業内容	<p>とめ女性支援センターhug に設置された小型の販売展示レンタルBOXに出店する女性手作り作家に対し、イベントやワークショップ開催のPR、販路や商品のブラッシュアップ等の支援を実施した。</p> <p>【コバコ作家同士の交流・情報交換・スキルアップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偶数月第1水曜日 「コバコお茶会」 作家さん達の情報交換の場として実施。 ・奇数月第3日曜日「コバコワークショップ」 ポーセラーツづくりや、一閑張り体験、メディカルアロマワークショップなどを実施。 <p>【発表の場づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年12月～ うれしやTOME 本店内にコバコギャラリーの設置 キットパスやパステルアートの絵画展 ・えむあいサークルの企画・実施 三越登米佐沼店さまを会場に毎月1回、手づくりワークショップを開催した。 ・米川・移動マルシェへの出店協力 第3期米川地域づくり計画の買い物支援のアクションプラン「移動マルシェ」の実施主体にとめタウンネットが参画したことから、地元のイベントの際にマルシェとして出店協力をした。(6月蛍まつり、10月手作り文化祭、2月かぶり) 		
成果	手仕事による身の回り品の販売支援を通じて、東北の暮らしの知恵を発信するとともに被災地での女性の仕事づくりを支援できた。		

事業(9)	移住・定住推進連携事業	実施日時	令和元年8月1日～ 令和2年3月13日
--------------	-------------	-------------	------------------------

実施場所	東京都目黒区・世田谷区・千代田区	従事者数	4人
受益対象者	東京都民・登米市民・南三陸町民	事業分類	シティプロモーション事業
事業目的	東京と登米市を繋いで登米市の良さを知ってもらうために、東京で登米市の食材をPRするイベントを開催する。また、南三陸町の海の幸と一緒に紹介し、登米市及び周辺地域の豊かな食文化を知っていただくことにより、登米市への移住定住の足掛かりとする。		
事業内容	<p>1. 里・海の生産者と消費者との交流会「ととと交流会」の開催（4回実施）</p> <p>実施日：令和元年9月28日、10月26日 11月30日、令和2年2月22日</p> <p>実施場所：東京都世田谷区駒沢 「駒沢310」（サンイチバル） 東京都千代田区内神田「竹仙」 東京都世田谷区奥沢「肴ひより」</p> <p>参加人数：62名</p>  <p>2. 里・海連携ふるさと物産展</p> <p>東京都目黒区自由が丘の商業施設「自由が丘ひかり街」の協力のもと、地域資源である食品を取り扱う企業（マルニ食品・伊豆沼農産・石越醸造・たみこの海パック）の方々に参加いただき、お米の試食、郷土料理はっこの試食、販売などを行った。</p> <p>実施日：令和元年11月23・24日</p> <p>実施場所：東京都目黒区自由が丘ひかり街</p> <p>協力企業：マルニ食品・伊豆沼農産・石越醸造 たみこの海パック</p> <p>参加人数：300名</p>  <p>3. 登米市・南三陸町移住定住アンケート調査</p> <p>昨年に引き続き、東京都内に於いて実施する移住定住促進イベント時や、ご協力いただける大学や商店街等に移住定住に向けたアンケート調査を実施した。</p> <p>実施月：令和元年8月～令和2年2月</p> <p>回答者：219名</p> <p>4. 登米市小冊子フリーペーパー「ととと」発刊</p> <p>移住定住に関する情報を掲載した小冊子（フリーペーパー）を3000部×2回作成し、東京都内の関係する大学、企業、商店街等に配布し、登米市と南三陸町を直接的に知って頂く機会とした。</p> <p>※平成31年度みやぎ移住・定住推進連携事業業務</p>		
成果	今年で2年目の事業であったため、ととと交流会の参加者は増え、登米市の食材を楽しみながら大いに登米市を語り合うことが出来た。また、首都圏でのイベントを通じて多くの方に登米市を知ってもらうきっかけとなった。		

事業(10)	ばけつ畑部プロジェクト	実施日時	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日
実施場所	登米市米山町かのファーム	従事者数	3人
受益対象者	登米市民及び仙台市民、南三陸町民	事業分類	シティプロモーション事業
事業目的	農業体験を通し、登米市民と他地域の人々が交流を楽しみながら、一年を通じて実践できる都市と農村の交流のモデル事例を構築する。		
事業内容	登米市米山町かのファームの畑をお借りし土づくりから種まき、肥料や水播きなど様々な野菜の育て方や1つ1つの作業の意味を学びながら、収穫、調理まで、10人程度の参加者のもと、毎月第4土曜日の定例部活として実施した。		
成果	登米市内外の参加者と生産者との交流を深めることができた。 子ども達に対しては実際に野菜を育てることで食に対する意識を芽生えさせ、農業に興味を促すことができ食育につなげることができた。		

事業(11)	第2回世界防災フォーラムへのパネリスト参加	実施日時	令和2年11月11日～ 令和2年11月12日
実施場所	仙台国際センター	従事者数	2人
受益対象者	フォーラム参加者	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	国内外の防災に関する解決策を学び、新たな価値を創造するとともに、防災に関する世界レベルの議論に触れる。		
事業内容	スイスで隔年開催の「防災ダボス会議」と連携し、今回2回目の開催となる国際会議「世界防災フォーラム」に参加した。東日本大震災からの復興を女性支援の視点から取り組んでいる「編んだもんだら」の事例をポスターセッションと本セッションで報告させていただいた。		
成果	被災から復興への過程における「手仕事支援によるコミュニティづくり」には外国の参加者から強い関心が寄せられた。 国内外における防災の具体的な解決策を学ぶとともに、従来型BCPでは対応しきれない災害やリスクに備えるためのCCP (Community Continuity Plan) 整備の必要性を実感した。		

事業(12)	とめ市民活動プラザ運営事業	実施日時	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日
実施場所	とめ市民活動プラザ	従事者数	5人
受益対象者	NPO・市民活動団体・コミュニティ組織	事業分類	中間支援事業
事業目的	協働によるまちづくりを推進するため登米市が設置している「とめ市民活動プラザ」の運営を受託し、市民活動に関する情報提供や各種相談、多様な主体と協働した仕組みづくりや人材育成などを実施する。		
事業内容	<p>1. 市民活動に関する情報の収集、提供及び発信業務</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 機関紙「ぶらっと・とめ」の発行・配布（年4回 6月、9月、12月、3月） (2) コミュニティFMによる情報の発信（まるっと!とめ Like は47回放送） (3) 県内外のNPO・市民活動団体等の活動情報の収集及び提供 (4) NPO・市民活動団体等のデータベース管理 (5) 地域課題の解決を図る取り組みの情報収集及び提供 (6) 窓口スタッフによる各種相談対応、情報提供、案内 <p>2. NPO・市民活動団体・コミュニティ組織等への支援業務</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ホームページ等による情報発信 (2) 市民活動団体等の交流会の開催（2回開催、参加人数31名） (3) 無料専門相談会の開催（10回開催、相談件数13件） (4) 地域づくり計画の実践支援及び各種相談業務 (5) NPO・市民活動団体等のイベント協力や取材 (6) NPO・市民活動団体等と行政との連携、協働の推進 (7) 市民活動支援に関する調査、研究、支援 <p>3. 人づくり・人材育成支援業務</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 人材育成講座の開催（5回開催、参加人数83名） (2) 労務・会計講座の開催（2回開催、参加人数38名） (3) 市民向け講座の開催（4回開催、参加人数144名） (4) スタッフ研修（各種研修及び会議の参加32件） <p>4. 施設の運営に関する業務</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 施設案内及び利用者への対応（交流・会議スペースの利用者1001人） (2) 施設及び設備（印刷機等）の利用への対応 (3) 利用者状況資料の作成・報告（月次・年次） (4) 施設設備の管理に関すること (5) 職員体制の計画・労務管理 <p>※別紙、とめ市民活動プラザ年間実施事業内容参照</p>		